

塾長と日吉の森を歩こう！

ライター：大村理保子、荒巻萌子、小俣芹夏 エディター：横澤樹

神奈川県横浜市にある慶應義塾大学日吉キャンパス内には、広大な森が広がっている。地面には落ち葉が分厚く積もり、木にはツル植物が巻き付いている。色とりどりの花が咲き、その周りを蝶が飛んでいる。岩陰にはキノコが生え、耳をすませば鳥の声が聞こえる。かつて雑木林として利用され、14.6haと現在も横浜市の緑地の3割を占める広さを誇るこの森だが、1960年代頃より約50年間放置されたことなどから破壊が進んできた。現在は学生の一部や教員による保全活動が行われている。

この森に関心を持っている学生は少ない。多くの学生が森を知らないまま卒業し、他のキャンパスに行ってしまう。森の再生を目指し、保全活動を行う人がいるということをもっと広く知ってもらいたいという思いから「塾長と日吉の森を歩こう！」は企画された。当イベントは毎年春と秋に実施されており、2015年5月9日に行われた今回で17回目を迎えた。慶應義塾大学清家篤塾長をはじめ、動植物に関する専門知識を持った教職員、そして学生が、森を歩きながら自然を観察する。蜘蛛が地面に穴を掘って巣を作るなど、動植物の意外な生態を知り、日吉の深い自然に触れることが出来る。

終始おだやかな笑顔で学生たちと話し、心地よく散策を終えた清家塾長。塾長は、森と大学は似ていると語る。「森には個性ある木が集まっており、植物同士の良い関係で木が育つ。これは、学生同士の関係にも似ている。」また、「この森が学生の大学生活を豊かにするものであってほしい」とも語った。

保全活動を行う学生によると、現在は主に冬に植林活動を、それ以外の期間には植林に向けて外来生物の除去などを行っているという。しかし植樹したものが森になるまでは少なくとも15年はかかるため、成長するまで世話を怠らずにしていきたいと意気込む。また参加した学生は、「身近な森だが知らないことが沢山あった。」「今日得た知識を誰かに披露したい。」と、有意義な時間を過ごせたようだ。

このイベントを企画した同大学経済学部の長沖暁子教授によると、保全が進むこの森であるが、まだ手入れがされていない部分があるのも現状だという。今後より多くの人に保全活動に参加してもらい、将来的には、森を一周できる遊歩道を作るなどして、学生はもちろん地域住民の方々の憩いの場にしたいと考える。また今後、毎月の観察会、定期的な保全作業、「日吉の森」について学ぶ授業の設置などを企画しているという。

【編集後記】

これまで知らなかった日吉の深い自然に触れ、親しむと同時に、日々保全活動を行うボランティアの方々の存在を知ることができ、貴重な経験となった。森をより良いものにしようと尽力する方々に感謝をするとともに、この記事を通して日吉の森の存在が少しでも広まり、保全活動に興味を持つ人が増えてほしいと願う。

大村理保子

実は、実際に日吉の森を歩くことなく今回の記事作成をお手伝いさせていただきましたが、三田キャンパスに移る前に一度は必ず訪れたいと思いました。森の存在を知ってはいいたものの、想像以上の自然あふれる生態を発見することができるのではないかと思います。ぜひ一度訪れていただければと思います。

荒牧 萌子